

〔応用薬理, 20, 13 (1980)〕

Isopropylantipyrine (IPA) の抗原性についての検討 (第2報)

ピリン過敏症患者血清を用いた, サルおよびモルモットにおける
試験

和田 浩*, 甲田 彰*, 渡辺茂勝, 森 裕志, 江田昭英

**Antigenicity test on isopropylantipyrine (IPA) (2) Immunological
study of antibodies in sera of patients sensitive to pyrazolone
derivatives by using monkey and guinea pig**

HIROSHI WADA*, AKIRA KODA*, SHIGEKATSU

WATANABE, HIROSHI MORI, AKIHIDE KODA

Pyrazolone 系鎮痛解熱薬の皮内注射により即時型過敏反応を示すピリン過敏症患者血清中の aminopyrine(AMP) および antipyrine (ANT) に反応する抗体の検出を試み, また, isopropylantipyrine (IPA) との免疫学的交差性についても検討した。

抗体検出反応としてはサルの Prausnitz-Küstner (P-K) 反応, 受動的に感作したサル肺切片からの抗原による histamine 遊離, モルモットの 3 hr heterologous passive cutaneous anaphylaxis (PCA) および Ouchterlony 法を用いた。誘発抗原としては AMP, ANT, IPA 単独, それぞれの薬物を投与したサルの血清, ANT の aldehyde 体とウシ血清 γ -globulin (BGG) との結合物, 4-aminoantipyrine と BGG との結合物を用いた。

サルの P-K 反応では, いずれの誘発抗原に対する抗体も検出されなかった。サル肺切片からの histamine 遊離では, AMP および ANT に反応する抗体の存在が示唆されたが, IPA との交差性は認められなかった。Table に示すように, モルモットの PCA によっても AMP および ANT に反応する抗体の存在が示唆されたが, IPA との交差性は認められなかった。また, Ouchterlony 法では, いずれの誘発抗原に対する抗体も検出されなかった。この抗体は IgE 様抗体よりも, むしろ IgG 様抗体の関与が考えられた。モルモットを用いた PCA は, ピリン過敏症患者血清中の抗体検出法として応用しうるものと考えられる。

TABLE Antigenicity test on IPA: Examination for evidence of PCA caused by the sera obtained from normal human or pyrazolone derivatives-sensitive patients

Group	Antigens			
	⑬	⑩	⑪	⑫
Normal serum, No. 4	0.63	0.68	0.45	0.53
Saline	0.21	0.26	0.29	0.25
Patient's serum, No. 5	1.15	2.98	1.13	0.69
Patient's serum, No. 6	0.68	1.10	0.72	0.59
Patient's serum, No. 7	0.63	0.55	0.75	0.39

Figures show amount of dye caused by PCA ($\mu\text{g}/\text{site}$).

Antigen; ⑬: ANT-CHO • BGG, ⑩, ⑪ or ⑫: Dialysate of serum taken from a rhesus monkey at 6 hr after the i.p. injection of AMP, ANT or IPA, respectively.